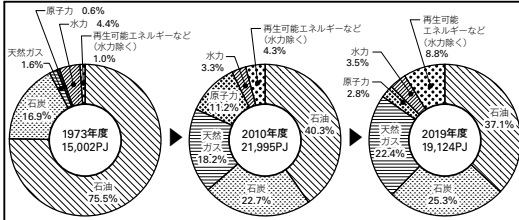


学習課題

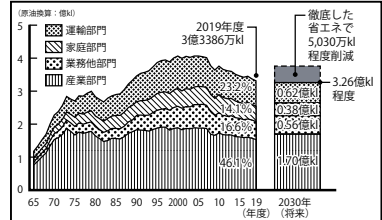
“島国”日本に必要な資源・エネルギーは、どのように確保されているのだろうか

2年 組 番 名前

◎資料A 一次エネルギーの国内供給の変化



◎資料B 部門別最終エネルギー消費量の変化



◆資料Aから変化の特徴を考えよう。

(記入例)

- ・石油が多くを占めているが、1970年代に比べ、エネルギーの多様化が見られる。
- ・国内供給量が大きく増え、エネルギーの需要が高まっている。

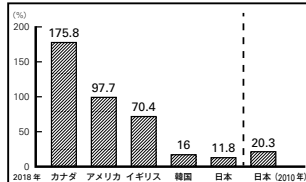
◆資料Bから変化の特徴を考えよう。

省エネルギー化が進んだことにより、全体のエネルギー消費量が減少している。産業部門では、エネルギー消費量はほとんど増えていないが、民生部門や運輸部門では1970年代に比べ大きく増加している。

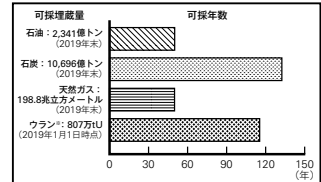
◎資料C 日本と各国のエネルギー消費量

国名	一次エネルギー消費量(EJ)
中国	145.46
アメリカ	87.79
インド	31.98
ロシア	28.31
日本	17.03
カナダ	13.63

◎資料D 日本と世界の主な国のエネルギー自給率



◎資料E 世界のエネルギー資源と可採埋蔵量と可採年数

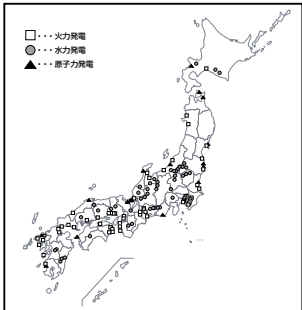


◆資料C～Eをもとに、日本のエネルギー消費の課題を考えよう。

(記入例)

- ・日本が国際的に見て、エネルギー大量消費国であり、さまざまな場面で欠かせないものであること。
- ・有限なエネルギー資源に依存し、輸入に頼っていること。

◎資料F 日本の主な発電所の分布



◆それぞれの発電所がどこに分布しているのか、まとめてみよう。

火力発電	臨海地域 (海外からの資源の輸入に便利、電力需要が高い地域)。
原子力発電	人口密集地から離れた沿岸部 (海外からの資源の輸入に便利、大量の冷却水の確保)。
水力発電	ダムをつくりやすい河川上流の山間部 (大量の水の確保)。

◆今後、日本が必要とするエネルギーをどのように確保すればよいか考えよう。

(記入例)

“島国”日本は、エネルギー大量消費国であり、有限なエネルギー資源の輸入に依存している。また、それらの資源を生かし、日本の地理的特徴を踏まえた発電が行われている。産業や生活に欠かせないものであるため、エネルギーの安定供給への取り組みが重要である。